



QUAKE NEWS

～ 地震観測情報 ～

賛同者と観測協力者を受け付けています。
観測や情報システムのV_{up}を行っています。

電離層の変化を観測 (電離層の反射波利用)

- 遠距離のFM放送波
- 超低周波帯の電波
- 観測局数は3~8局

電離層

約100k~350km上空

電離層 F2層 地上約300~350km

電離層 F1層 地上約200~250km

電離層 D・E層 地上約80km~100km

電離層は地表から遠過ぎて変化が出にくい

何故？予測確率が大きく違うのか？

地表で最も効率的に観測！で相違

雲の層 3k~15km 雷層

電磁地震計

地表電磁波 1.5m~10mで地上の影響が最も出やすい

地層

地表での多数観測 (震源~直接波利用)

- アースからの受信
 - 地表での間接受信
- 変化は分かり易いが
高度の技術が必要！

アース版

A 地下電磁気

震源
軋轢

押される=プラス圧電気

裂かれる=マイナス電気

ズれる=摩擦電気

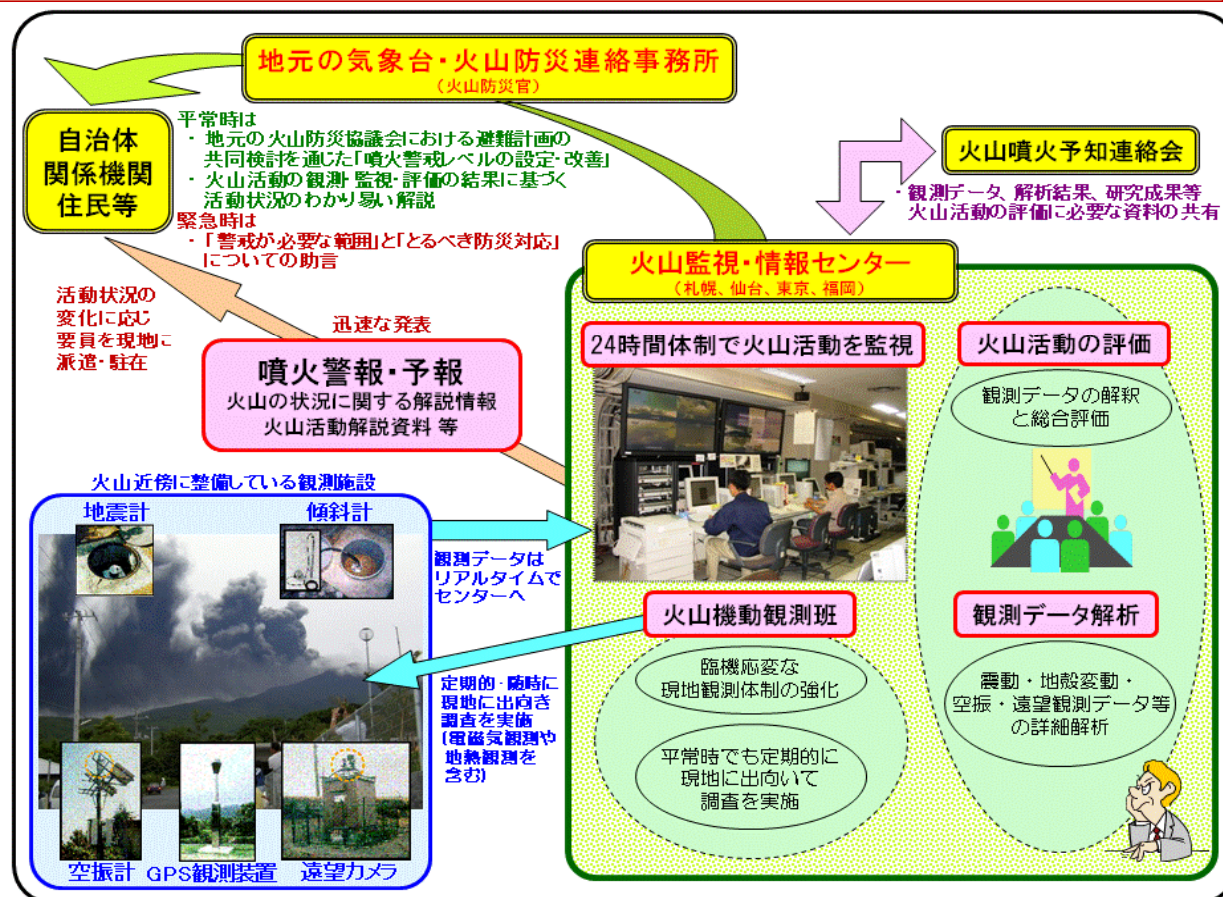
電磁地震計で地震情報は自動的に観測！

数百局の観測監視で間違っっては困りますから**コンピューターで自動的に処理**します。

異常レベルに応じて 注意報や警報、特別警報等 となります。

気象、地象も（地震トリガー）の一部で、多くの観測データを統合利用すれば、確率の高い信頼される地震情報となります。

(右は気象庁の例)



私たちは地震電磁気学ではトップ級



地震学者も、地震学はプロですが電磁気学の分野は、少々苦手のようです。

だから、私は地震観測の電磁気分野では常にリードし、新しい発見を連発し、十分に「**活躍しているのです**」。

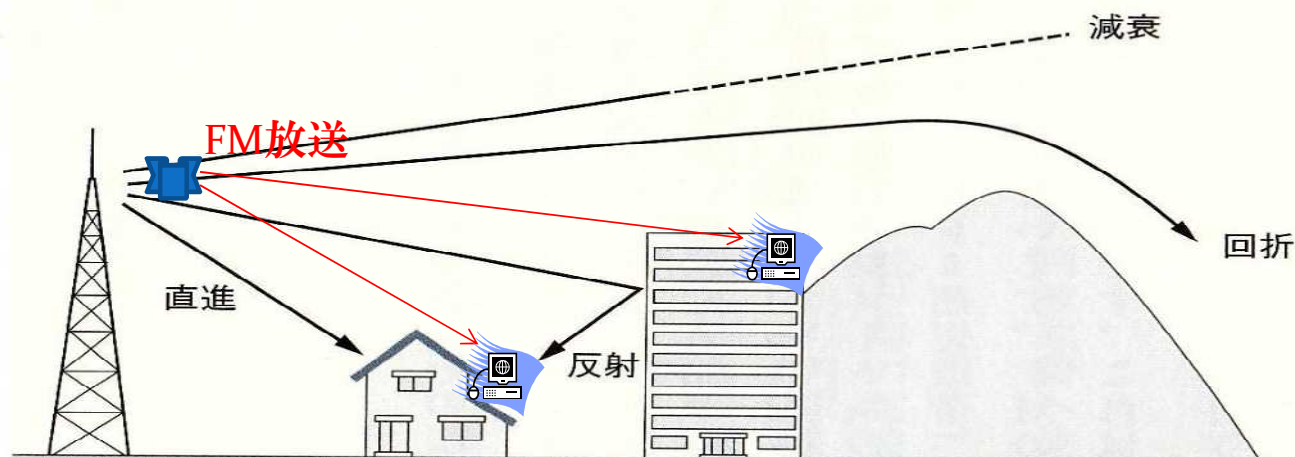
私は、地震学会員として研究を始め、8年ですが、新しい分野の研究発表を3回行い、新聞やCQ等の月刊誌に7回掲載されてきました。地震電磁気学では40年の無線業務経験を生かし、発想や実験技術は、最高レベルと自負しています。



資料

電磁波の観測は各種ありますが、当観測網では地表を伝わるFM放送電波等やアースから直接受信して、**揺らぎ現象等を観測**しています。

- FM波の観測では、直接波を受信するため数m～数十m高の見通しアンテナで受信し、電波Dataを収集しています。なお、直接波観測は、電界強度の「±」両方向の観測が
- 図2-4 電波の性質 大事で予測には貴重なデータとなります。



FM受信用
ダイバシティ
アンテナの例



遠くになると、100Km程度のフレネルゾーン迄の地表波を観測していますが、電離層の変化を利用した観測は、地上80Km～300Kmの上空になり、観測範囲が広がって3要素が絞りにくいので、当観測エリアは横50Kmを基準としています。

資料

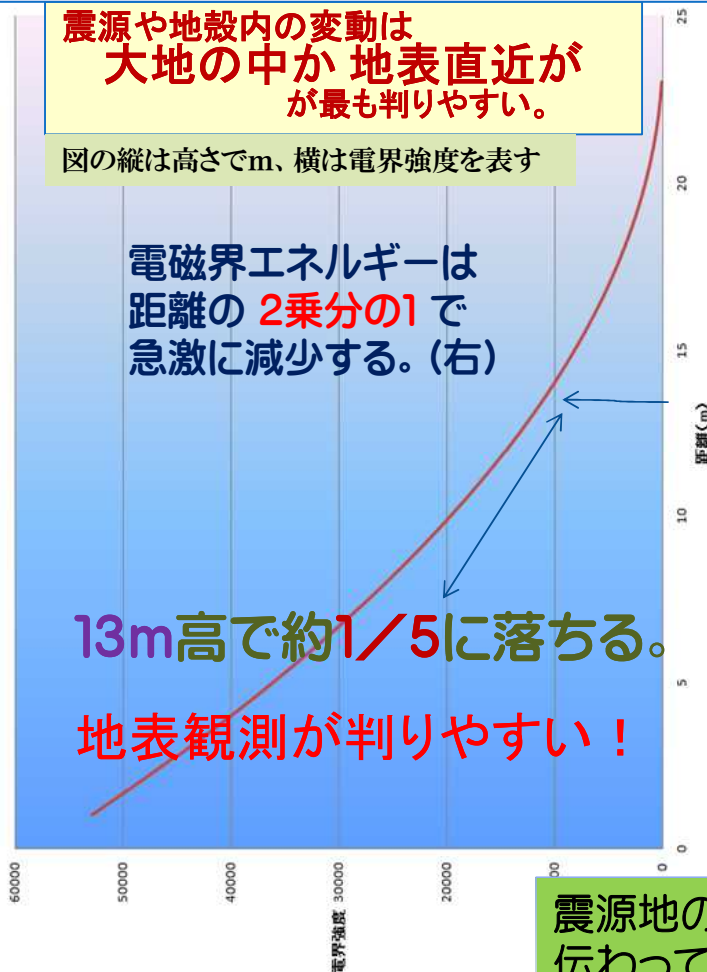
(理論) 地表面と上層の電磁界強度

震源や地殻内の変動は
大地の中か 地表直近が
最も判りやすい。

図の縦は高さでm、横は電界強度を表す

電磁界エネルギーは
距離の 2乗分の1で
急激に減少する。(右)

13m高で約1/5に落ちる。
地表観測が判りやすい！



電離層 (D F1 F2層) 約100~300km

スプラディックE層 約80km

電離層 ↑

空気層と電離層

上層の縦は地上高でKm(電離層の図)
下図の縦は空気層でKm(電磁界の図)

空気密度 ↓

地上30km 1/100

地上10k 1/4

地上5k 1/2

空気密度グラフ

地表

雲層

震源地の電磁エネルギーは電磁誘導等で地表まで
伝わって電磁気層や電磁輻射現象の原因となる。

観測手法の
現況

衛星観測
難しい

電離層観測
大まかにし
か判らない

地表観測
最も
判りやすい

地中観測
ノイズで判
りにくい

その他
研究中

理論解説

光と電磁波
は同じ性質
を持っています。

光は、蠟燭
の向こうで
は、揺れて
見えますが

同じ事が
電磁波でも
電界の揺れ
になって現
れます。

曲折理論と メカニズム

震源の軋轢等で発生した、電磁エネルギーは、地表面に伝わると、貯まって電磁界層を形成したり空中へ放射されたりします。

この(電磁界層は)

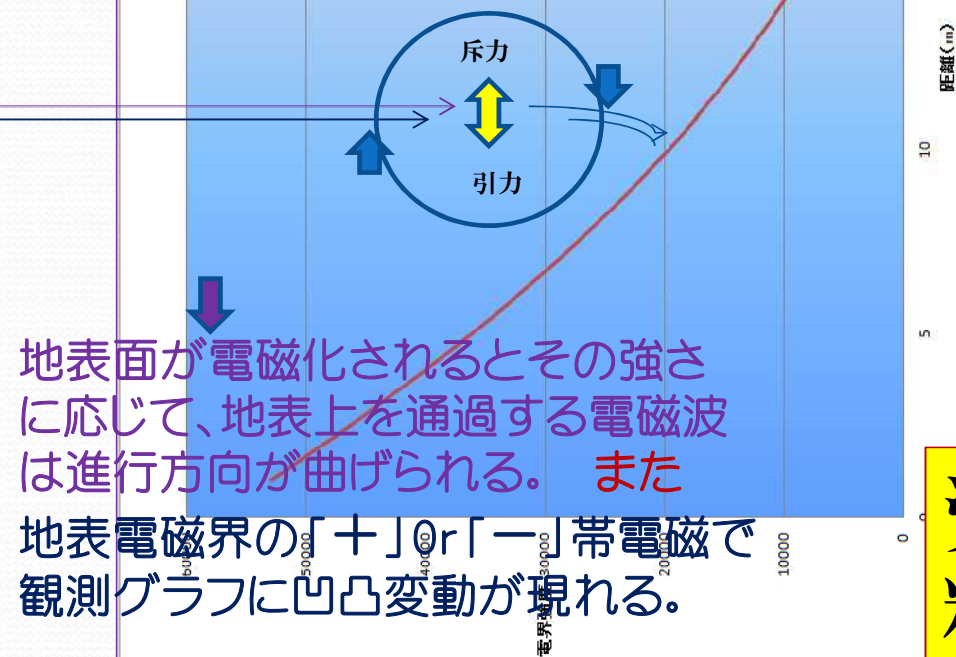
空気コンデンサー模様の界層で、地表では、電磁界の強度が最も強く現れますが、地上高が上がると(約距離の2乗に反比例して)極端に弱くなってしまいます。

(連続的な電磁誘導作用)

電気及び、磁氣的な引力や斥力等の作用によって、影響が最も強い地表では、通過中の電磁波も電磁界変化に応じ、屈折や曲折が発生して、電界強度が変化します。

地上4m = 4万が20m = 2千で約1/20に落ちる

(電磁界強度の減少グラフ)
高さ、電磁界強度の変化



資料

FM放送バンドでの異常Pulse数(2014年3月)

FM放送バンドで受信した電磁パルスの回数を記録したものです。(回数は概略で(赤)の記録有)

2014年	月	日	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	日合計
2014年	2	23																				9			2		11
2014年	2	24			1		1 b			30	30	40	40	40	50	40	20 b			1	a	a		a		1	294
2014年	2	25	1		a11	1	2 b		1 b	b	b		3	10 b		10	1 a		2	2	1			b	2 b11		36
2014年	2	26			4 a11			2	2 13aa						2				bc	8b	8b	7c	7c	6c	6c		10
2014年	2	27	1	toppayure	6y	6y	6d	kieru		5c	6c	6c		5c	6c	6c			2 7c	5c		3 5c	7c	kieta	fukat		6
2014年	2	28	5	3	2	3	2		3	3	2	6	3	2	2	2	0	4	1	3	8	3	4	4	5	5	75
2014年	2	29		5	1		3		1	2	5	1		2	1		8	5	99	200	150	150	250	300	400	350	###
2014年	3	1	120	120	70	50		4		2	5	8		3			7	35	100	300	300	350	400	400	350	###	
2014年	3	2	50	300	100	40	100	70	20	50	揺れ	揺れ	5	10	50	250	500	400	300	300	250	350	300	400	50	100	### 大潮
2014年	3	3	150c	3	10	70	200	250	80	40	5	3			1	40	50	30	100	300	300	200	200	200	50	10	###
2014年	3	4	50	70	20	10	3	5								1		20	120	150	200	350	250	150	200	100	###
2014年	3	5	200	120	100	80	100	100	100	100	150	300	200	80	100	100c	50	30c	110	80	100	100	120	150	110	25	###
2014年	3	6	5	2	3	60	3	2	6	2	1	2	2	3	3	1	2	3	50	70	150	250	350	400c	300c	250	###
2014年	3	7	200	80	3	30	60	20	2		1	3		3	4			13	30	50	130	180	100	100	40	4	###
2014年	3	8	2	4	2	3	1		1	2	5	3	5	10		1	2	2	70	170	130	140	100	120	80	80	933
2014年	3	9	50	25	10	10	10	usuku	usuku	5	20	50	70	200	350	400	200	100	90	110	170	200	250	200	270	220	###
2014年	3	10	60	4	topp		2	1		2	2	2		2	1			20	250	250	300	300	350	180	80	20	###
2014年	3	11	10	3	7	50	20	1	150c	5	10c	3	1						1	25	50	14	40	200	250	680	
2014年	3	12	200	4	maga	5	5	3	3					1				2	3		5	10	25	23	toppa	30	319
2014年	3	13	barak	50c	45c	80c	15	10c	3	3	30	25	70c	10	50	20	15	55	40c	170	120	170	160	200	120s	10	###
2014年	3	14	barak	3	3	2	3					2		2	1		3	1	3	45	140	280	170	200	300	taba	###
2014年	3	15	70	40	30	100	110	70	250	400c	300c	30	50d	4		2	3	170	120	50	240	300	20	30	7	3	###
2014年	3	16	2	3	2		3	2		1			1	2		170c	20	5	3	5		3	3	5	2	3	66
2014年	3	17		2			1		4		1				25		10	5		7	70	100	80c	100c	5	20	250
2014年	3	18	8c	3	50cc	100c	200c	12c	25cc	9b			3	1			3	1			3	henn		1	3		18
2014年	3	19	5	1		1			1			2	2			denn	denn		90c	120	300	150	30c		1	ijyo	583
2014年	3	20	2		4		3	50	30	100c	80	80c	60	40c	35	30c	30	70c	70c	140	100c	60	40	60	110c	80	674
2014年	3	21	120	30		2	2	2	1				1	2	3	9c		10	33	70cc	150c	25cc	tuus	30cc	7cc	50cc	206 大潮
2014年	3	22	1	2				1				2							3			1	1		1	40cc	12
2014年	3	23	3							2																	

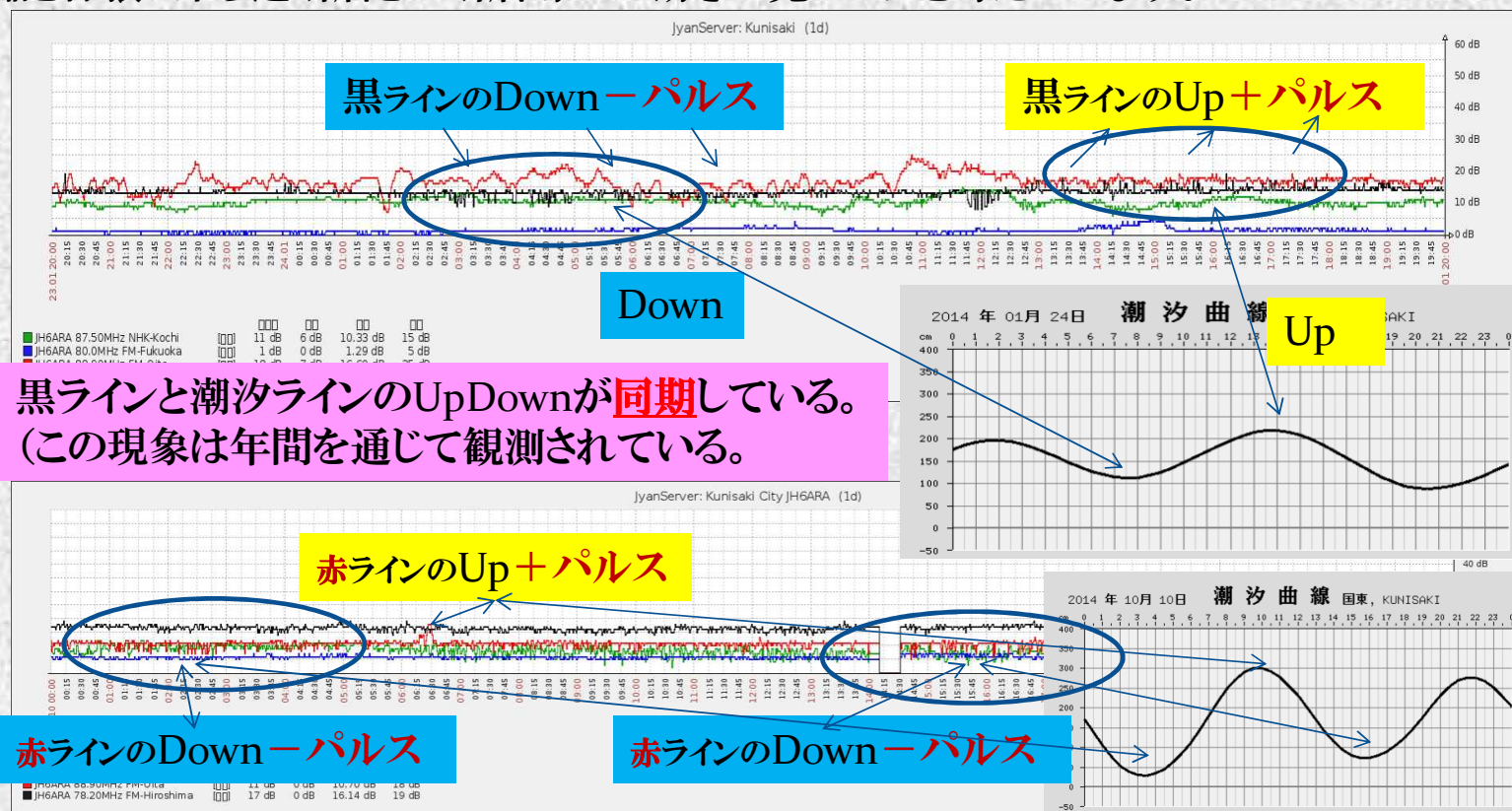
2回の地震の前が騒々しくなっています。これで、地震とパルスの関係があることを確信しました。
また、この表では何となく右・左に纏まりがあります。これで潮汐との関係にも気付きました。

この異常は、断層やズレ等の地殻変動と、強風(台風含)、潮汐等の「影響が大」です。

電磁波異常のDataとメカニズム

地表電磁界が影響を受けた観測記録 例 (UpDown, Pulse)

注意 UpDownとPulseの上下方向は、電界的な+と-の変化で現れていることから、軌轢の圧縮と伸張、即ち逆断層と正断層等々の動きで発生したと考えています。



地震情報が必要と予想する事業所例



幼保病院他、予報を必要としている代表的な職種リスト

想定される利用用途



資料

- ①JYAN研究会ホームページです。研究会の概要が載っています。特に観測局の情報が人気です。
- ②地震予測観測網は、実際に観測している方向けのHPです。専門的な解説等もあります。
- ③HAMICFSは研究会の試売HPでボランティア的です。参照は以下から
当研究会の「紹介サイト」

JYAN研究会HP地震予測観測網HP

トップページ

HAMIC

研究会の方針

研究の概要

公開・配信の情報

観測局NET

研究会連絡事項

お問い合わせ

地震の防災で、ハム(電波)と測網(FRI)と地震(EQ)学習が全国ネットで見守り観測や地震予知の研究を行っています。

『自由な発想』と『最新の技術』を駆使して『Safe life』に向けて情報発信します。

電磁気異常の情報はHAMICも配信窓口をお願いします。

配信サービス

地震情報

観測局情報

HAMIC配信窓口

（本年も地震等の観測に変化があり、地表電磁界やAM帯・短波帯、FM帯等の観測から「地震等の予知」をお知らせしています。地震情報ページ（詳細）や、観測情報、またNEWS & TOPICS等をご覧ください。）

NEWS

ツイート いいね! シェア

（JGU学会発表内容）2015年5月25日～26日 JGUの学会大会が24日～28日まで幕を閉じました。当研究会から私（会長）が25/26両日に渡って発表しました。主旨は「カーの観測」した内容です。特にFM観測で、電磁気異常から観測が同期して、地殻変動から電磁気異常、電磁気異常から地震予知へと発展する大発見となり、震前兆の観測ツールとして関連性が証明され、予知情報の観測ツールとし、メカニズムとなります。詳細は「研究の概要」ページをご覧ください。なお、今後は観測に期待が寄せられるようになります。見逃しの無い「地震前兆情報」ページにしたい。

TEL.0978-72-2643 FAX.0978-72-3641 〒873-0503 大分県国東市国東町鶴川1737番地

地震予測観測網

トップページ(新着情報は最下段をご覧ください) 研究方針と活動Report 研究概要 観測NET 研究発表(学会他) CQ誌掲載

入会のご案内 お問い合わせ ブログ 観測と異常変化の状況 地震警戒情報 HAMICとその運用

0 3 6 9 12 15 18 21 24 27

-24 -32 -40 -48 -56 -64 -72 -80

-24 -32 -40 -48 -56 -64 -72 -80

2 2 1

いいね! 8+1 ツイート

2015年(平成27年度)からの方針について

先般、観測網各位に伺いましたJYAN研究会や地震予測観測網の活動方針ですが、お返事を承りました。ただし、次の意見がありましたので、活動計画に生かしたいと思っております。以下にその概内容をアップします。

地震予知アマチュアネットワーク会員、且つ、地震予測観測網協力局の皆様へ（ご意見を募集します）

年3月29日 JYAN研究会の目標及び方針のVupについて JYAN研究会 会長 國廣 春彦様、皆様には健やかに過ごすごことと拝察申し上げます。また、平素から地震研究と電磁気異常の観測に携わってくださることに感謝申し上げます。さて、新しい年度が始まります。

最近の投稿

地震予知学会のお披露目式Report

サイバー攻撃? 撃退

電磁波の観測と解析実績について

九州一の久住連山

HAMIC=FORESIGHTは地震予知を専門とする安全推進研究所です。あらゆる災害を予防し、安全で快適なライフスタイルに変わる防災備品をお届けします。

サービス service

採用情報 recruit

アクセス access

TOPICS&CONCEPT

HAMIC(FORESIGHT)

長編をご覧戴き有り難うございました。

- 私達の目的は、地震予防です。「無念の死」を極力減らします。
- 消防救助の経験から「人、一人の命」が、どれほど重いかを理解しています。
- 危険が高い震度6以上の地震は、100%の警報発信を目指しています。
- 突然の大地震でも、当地震情報によって予防できれば、無情の喜びです。
- ご助成、ご協力戴ける方は、jh6ara@orange.ocn.ne.jpにお願いします。